

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202346		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム樹寿		
所在地	静岡市葵区瀬名3-38-8		
自己評価作成日	令和5年 11 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和5年 12 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 12月 6日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「緑に囲まれその人らしく安らげる家」に沿えるように一人一人の思いや、ご家族の思いに出来るだけ応え安心して暮らして頂けるように職員全員で必要な支援を行い、環境づくりに努めています。畑で野菜を作り、収穫を楽しんだり、緑を見ながらの散歩が出来たり、ホームが平屋で広々としたつくりの為に、長い廊下を利用して歩行練習しながら隣のユニットとの交流を楽しんでいます。コロナ禍でも孤立感なく過ごせたように思います。今年5月よりコロナも5類となり、ようやくボランティアの受け入れも再開となり、今年はバイオリンの演奏や、フラダンスの鑑賞等を楽しめました。入居者様にはこれからも少しでも楽しい時間を提供していきたいと思っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は地域とのつながりをを大切に、地域の人に施設のことを知ってもらうため毎回自治会の会合に出席、施設の活用についても車いす利用者の避難所での不便を考え施設のトイレの使用を申し出るなど地域に溶け込んでいる。その他、運営推進会議には全利用者家族の参加を促す案内の送付など地域密着型サービスについて理解している。また、法人のホームページには職員の意見等を書き込めるサイトがあったり、カンファレンスは当日休みの職員も参加するなど全職員が一体的に介護に取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	縁に囲まれ、その人らしく安らげる家」を理念に掲げ、入居者様にとって我が家の様に感じて頂けるような環境つくりと支援をしています。思いを共有できるよう、会議等で話し合うようにしています。	法人の理念「その人 のために」は玄関に、事業所の理念「縁に囲まれ その人らしく安らげる家」は事務室にそれぞれ掲示している。日々の業務では安らげるために何が必要かを考えながら声かけ等を行い利用者本位を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でも、感染状況を踏まえながら月に一度の自治会会合には管理者が参加したり、地域の消防訓練に参加したりしています。コロナが5類感染症になってからは地域のボランティアの受け入れも再開しました。	管理者が毎月の自治会の会合に出席している。初めは自治会の資料の配付が無かったが今では資料ももらえるようになり、自治会の消防訓練等の行事に参加するとともに事業所のイベントの案内も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会会合時に、昨年のような大型台風で避難に困った際は(特に車椅子を使用している方等)ホームに避難することも可能と伝えたり、地域包括の依頼による、地域住民に向けての認知症講座を開いたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で紙面のみの時期もありましたが、今年4月から集まっての運営推進会議を再開することが出来ました。推進会議で出た意見は職員にカンファや全体会議時に伝え共有し、家族の思いも伝え日頃のサービス向上に活かしています。	地域包括センターから、年2回公民館で開催される介護者の集いや認知症徘徊訓練の参加依頼を受けるなど情報を受けている。運営推進会議に利用者家族に参加を促すため、全利用者家族に開催案内を送付し支援に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所への提出書類、はFAXでなく出来るだけ直接届けるようにしています。少しでも話をし顔を覚えてもらうよう努力しています。包括支援センターは推進会議にほぼ参加して頂いているので、包括から講義等の依頼がある場合は断ることなく協力おり、協力関係は築けていると思います。	市役所には介護保険課、生活支援課等の提出書類は持参するようにし、職員と顔なじみの関係になり協力してもらえるように努めている。なお、その時には運営推進会議への参加も依頼している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束しないケアの実践をしています。ただし、玄関施錠に関しては、内側からは簡単に開けられる仕様にはなっていますが、防犯上の理由もあり施錠しています。	事故・身体拘束委員会を設置し、身体拘束研修は1年間に全職員が参加している。法人内研修2回及び事業所内研修は3回実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止委員会を設置し、年に3回の勉強会、年に4回の委員会を開催しています。身体拘束ゼロ宣言しています。ただし玄関の施錠に関しては、防犯上の理由も含め、施錠していますが、内側から簡単に外せる鍵となっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で勉強会はまだ行われていませんが該当する入居者様がいます。今後勉強会を開いていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、入居者様やご家族様に説明し、ご理解承諾を頂いています。その際に何かわからない事があれば、その都度質問してくださいと伝えています。ご家族様が話しやすい雰囲気作りを心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見は、運営推進会議を通してお話して頂くとか、入居者様であれば、介護相談員などのお話で外部者へ表せる機会になっていると思っております。ご家族や入居者様からの意見は、ホーム内で共有できるように、全体会議やカンファレンス等で伝えます。	家族の意見・要望を聞く機会として、毎回運営推進会議の開催を全利用者家族に通知していると共に、家族の面会時には積極的に声かけをして要望等を伺うように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットでは月に1回カンファレンス、全体では2ヶ月に1回の全体会議で職員が意見や提案できる場を設けています。管理者に伝えやすい環境を作ることで、反映しやすくなっています。	法人のホームページに職員の意見や提案することができるサイトがあり、職員の意見を書き込むことができる他、ユニットおよび事業所全体のカンファレンスを行い職員の意見・要望を聞く機会を設け運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や人事担当者より職員の努力や実績、勤務状況を評価シートやテストを用いて個々に面談も行いながら代表者に伝えています。職員がやりがいをもち働けるように、職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、実務者研修を受ける職員への助成金や働きながら取得できるよう環境を整備しています。研修は法人内もちろんですが、外部研修も行きたい研修があれば届出を出して行くことができます。職員に対し、外部研修で良さそうなものがあれば紹介もしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の中から担当者が月に一度、関連会社との交流会に参加している。地域のグループホームネットワークにも参加し、交流を重ねている。他事業所の管理者を、実習としてホームに向かい入れることもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者と信頼関係を築くために、積極的に話しかけ、たくさんの中からの不安を聞き取ったり、感じ取ったりしています。自室の環境づくりや、居間での席の配置に配慮し、他入居者様とのコミュニケーションが円滑になるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際はご本人、ご家族の困っている事、入居後の生活の意向を聞き取りします。その他の不安な事等ありましたら、いつでも連絡頂けるようお願いしています。話しやすい雰囲気作りに努めており、時折入居者様以外の相談に耳を傾けることもあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後一ヶ月はご本人の様子を観察しアセスメント、やカンファレンスを行い、本人が必要としている支援、ニーズを引き出しプランにつなげています。他のサービス利用も入居時に説明し必要なものは取り入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上行えることは1人一人違いがありますが、洗濯畳み、食器洗い、食器拭き等、職員と一緒にしています。「助かります、ありがとうございます」との労いの言葉を忘れず伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は月に1度、月次報告書で受診状況や生活状況を詳しくお伝えしています。帰宅願望が強い方はご家族と電話で話して頂く等の協力をして頂きながら、共に支えていく関係性を築いています。コロナが5類になり面会制限が解除されてからは、いつでも面会できるようになった旨を連絡させて頂きました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍前はご友人やサークル仲間が面会に来られたり、家族との外食、法事などで外出を楽しまれていましたが、コロナが5類になるまでの間は中断していました。今年6月頃より徐々にですが、友人の面会やご家族との外出も増えてきました。月次報告でご家族に面会や外出できますと定期的に伝えています。	利用者が親戚や友人に葉書を出す時には住所に間違いがないか家族に確認するなど、関係が途切れないよう支援している。帰宅願望のある利用者が歩いて自宅に帰るのを見守りながら付いていったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を築くために、席の配置に配慮したり、会話の橋渡しをする等、日常的に行っています。近くの席の方を思いやる場面は多く見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した入居者様のご家族がイベントのボランティアに来てくださったり(ご本人様からの申し出)食べ物を寄付してくださったりと良好な関係が続いているご家族もいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、モニタリング、カンファレンスを職員全員で行い、本人が本人らしく生活していける為にどうすればいいのかを検討しています。一人一人のニーズに応えられるように努めています。	利用者の担当職員を決めており、その日の利用者の話や行動等により意向や希望を聞き体調を把握し、各ユニットにあるタブレットに記録をしている。カンファレンスにて情報の共有を図り、利用者の安らげる家を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の入居前アセスメントで、ご家族や関係者(デイサービスや入居している施設であれば施設関係者)に少しでも多くの情報を提供して頂き、今後のケアに活かしていけるよう職員間で共有します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のことはケース記録に記載し、職員間で情報共有できるようにしています。アセスメントに記入し、何か変化があった際は、記録、申し送りしています。Lifeを始めてから毎月の現状把握も行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、ケアプランが実行されているか確認をしています。実行できていなければなぜ出来ないのかを職員で話し合っています。ご家族の面会時やプラン説明の際にはご家族とケアについての話しもしています。	各ユニットのタブレットに記録した情報を基に、夜勤者を除く当日休みの職員も参加し全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化があった時は記録に残しています。日誌記入、申し送りをして職員全員で情報を共有しています。毎月のカンファ時に一人一人の様子を確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や要望に合わせて出来る範囲でサービスの多様化に努めています。ご家族の要望も言われることもあり、家族と話をすることを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお祭りに出掛けたり、リンク西奈の図書館で紙芝居を借り、皆さんに紙芝居を楽しんで頂いたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに入居される際に、24時間体制の在宅医療、静岡ホームクリニックと契約される方が多くおられます。ご家族の希望で、ホームの目の前の「えいもとクリニック」に行かれる方も数名おられます。本人及びご家族の希望を尊重しています。	入居時には利用者のかかりつけ医のほか協力医療機関や24時間対応の在宅往診医・看護師の説明を行い、利用者や家族の希望により選択できるように配慮している。多くの家族は24時間対応の訪問診療医を選択している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排便や浣腸、皮むけが出来た時の処置、巻き爪切り等、訪看をお願いしています。変化があった入居者様で心配事は、毎朝かかってくる静岡ホームクリニックのナースに相談して適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、出来るだけ面会に行き、状態把握をしています。病院関係者と情報交換もしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	静岡ホームクリニックの医師、ナース、ご家族、管理者でICを行った後に、ホームとして出来ることをご家族とお話する時間を作るようにしています。地域の関係者は特にいませんが、家族、医療、介護でチームとなり支援に取り組んでいます。	重度化の指針や終末期の指針を作成しており、入居時には重度化や終末期の方針について説明をおこなっている。終末期には訪問診療医および看護師、管理者、家族を含め話し合いを行いチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の救急対応や、心臓マッサージ、窒息対応のハムリック法等、定期的に勉強会を行っています。それと共に、万が一のコロナのクラスターになった時を想定し、防護服の着脱等の勉強会も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練は、定期的に行っています。夜間を想定しての訓練も回数はいませんが行っています。コロナ以前は自治会の避難訓練に入居者様と一緒に参加していましたが、ここ数年行けていません。水害時の訓練としては机上訓練のみで最近では出来ていません。	消防訓練等は毎年行い、地域の防災訓練にも参加し地域の車いす利用者には施設のトイレ使用を提案している。事業継続計画も作成済みで同法人の近隣施設との連携もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け等注意して行い、トイレや居室のドアを開けっ放しにしない、入浴の更衣時等も嫌な気持ちにさせることのないように注意しています。	職員は担当する利用者一人ひとりの性格や思い、体調を把握し、さりげない声かけをしてトイレ誘導を行っている。居室の扉は開けたままにしないなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちをお聞きし傾聴します。洋服を選んで頂いたり、散歩はどのコースがいいか、暖かい飲み物が冷たい飲み物か等、本人に何がいいかなるべくお聞きするようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の過ごしやすい場所で過ごして頂いています。それが自室の方、居間の自席の方、居間のソファの方とそれぞれですが、決まり事をあえて作らないようにしています。散歩に行きたいと要望があれば断ることなく出掛けます。「その人そのために」の会社の理念に沿って行動しているつもりです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な男性は整容として髭剃りを、女性は髪をとかしたり皆さんの爪切りを行っています。洋服を選んで頂いたり、自立の方は自室の洗面台で整容出来るようブラシ等置いてあります。それぞれに合わせた支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いは、入居時に本人、ご家族にお聞きしています。食事の準備は現在ほとんど職員がしていますが、後片付け、洗い物、食器拭き等、出来る方には一緒に頂いています。その方に合わせた生活リハビリを行っています。	冷蔵庫内の食材により利用者とメニューを決めている。普通食、刻み食、ミキサー食にも対応しており、利用者はたけのこご飯などの季節食を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10品目チェックや日々の献立を見て栄養バランスを考え、提供しています。水分や食事量はタブレットに記入し、一人一人の状態を把握できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に口腔ケアを行っています。自立の方は声掛け、見守りが必要な方は見守り、介助が必要な方は介助と、一人一人の状態に合わせた支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をヒントにしながら、失禁でなく、トイレでの排泄ができるようにそれぞれの入居者様の排泄のパターンを知ることが出来るよう努めています。排便コントロールも行っています。	職員はユニットで共有するタブレットにて排泄のパターンを把握しており、さりげない声かけで誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認しながら水分量のチェックやおなかのマッサージ等を行っています。毎日の体操や歩行練習と少しでも体を動かすことを促したり、医療と連携をしその方に合う便秘薬の相談をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で誰が入るか決めたりせずに一日3人を目標に入浴して頂いています。尿ストマーの入居者様はナースの交換時間に合わせて入浴しています。拒否の強い入居者様でも、職員を変え声掛けしたり工夫しながら入浴して頂けるよう努めています。入浴剤を入れて香りや色も楽しんで頂けるよう工夫しています。	利用者の希望する日時に対応している。柚子湯や菖蒲湯などの季節湯や複数の入浴剤用意しており、利用者はゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間の自席で傾眠している時は、声掛けして自室で休んで頂いたり、状況にあわせて休んでいただくよう声掛けしています。自室の温度や季節に合わせた寝具で気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人一人が服用している薬を理解するために、お薬の説明書はファイルに閉じてあり、いつでも確認できるようにしています。新しい薬が処方された時は必ず、いつから開始かを記載し、状態の変化に注意するよう申し送りを徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きなかたの為にYouTubeで音楽を映像付きで流したり、散歩が好きな方は散歩、ドライブ好きな方はドライブ、園芸好きな方は畑の手入れ等、それぞれに合った支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は一緒に食材の買い物に出掛けたり、外食支援も行っていました。コロナ禍では一切出来ない状態でした。コロナが5類になり、今年の5月以降、少しずつ以前の様に外食や外出できるようになってきました。ご家族の協力を仰ぎながら今後はもっと外出や外食に出かける事が出来る様に支援していきたいと思ひます。散歩は当たり前になっています。	コロナ禍により外出の機会がなくなり利用者の外出希望も少なくなったが、ラーメンを食べたい利用者が中華料理店に利用者の有志3人で出かけるなど希望があった場合は対応をしている。	コロナ禍前のような利用者から外出希望が出て来るような取り組みを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進み、持っていないお金を「取られた」と訴える方もいる為、常時お金をもって頂くのは現在は出来ていません。一緒に近くのスーパーに買い物に行く際に、小銭を持ちご自分で払って頂く支援は行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人よりご家族に電話したいと要望があればホームの電話で話をしています。ご友人や家族に手紙を書いたと言われ「出しておいて」と預かるも、住所が書いていなかったり、〇〇市〇〇様と、郵送先がわからないケースが多く、ご家族に確認したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整の管理はもちろん、大きな窓から入る光には十分注意しています。リビングや廊下には、季節に合わせた貼り絵や、好きな場所に座って頂けるようにソファを2カ所に置いてあります。トイレも常にきれいな状態であるよう心がけています。居間や廊下の天井が高く採光も良く庭を眺めながら日光浴も出来ます。	共用部分は天井が高く室内が広々としており、季節の飾りを職員と一緒に製作し装飾している。また、配置されている3つのテーブルやソファに腰掛けたり自室で過ごすなど思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時は決められた席に着かれて食事されますが、それ以外は自室で過ごす方、居間のソファで過ごされる方、居室で2～3人でおしゃべりされている方等、それぞれに好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族に伝え、使い慣れた物、好みのものを取り入れている方もおられる。状態に合わせてご家族と相談しながら居心地の良い空間を作るよう努めています。	自宅から持ち込んだタンスやテレビなど使い慣れた家具を自由に配置し、窓を模した自作のタペストリーを飾るなどリラックスできる空間作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレ等は分かりやすくするために目印のプレートを置いたり、居室扉横に表札を貼ったり、入居者様の状態に合わせて自立した生活が送れるように工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202346		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム樹寿		
所在地	静岡市葵区瀬名3-38-8		
自己評価作成日	令和5年 11 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和5年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 12月 6日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「緑に囲まれてその人らしく安らげる家」に沿えるように、一人一人の思いやご家族の思いに応え、安心して暮らして頂けるように職員全員が必要な支援を行い、環境づくりに努めています。コロナ禍では季節の行事も各ユニットで行っていたのが、今年5月よりコロナが5種になりやっとホームで季節の行事を合同開催出来る様になりました。入居者様が生活に楽しみを持ち、笑顔で生活出来る様に支援しています。ドライブや散歩で少しでも外に出られるように心がけています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を理解し、入居者様にとって安らげる家になるよう環境づくりや支援を行っています。管理者と職員が共有できるよう、時々会議でも理念の話をだすようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の数年間には地域の交流が出来ていませんでしたが、今年5月から5類になったこともあり、地域の夏祭りに声をかけて頂き、参加しました。事業所としては、月に一度の自治会会合には参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括の依頼で、管理者が地域の方に向けての認知症の講義を行ったり、来年1月の地域の認知症声掛け勉強会も依頼を受け、専門職として参加することになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で紙媒体のみが続きましたが、今年の4月から運営推進会議が通常に出来るようになりました。ご家族や市町村の方からの意見を会議で職員に伝え共有し、サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所にはFAXでなく、直接書類を届けにいくように心がけています。少しでも早く顔を覚えてもらい、推進会議に参加して頂けるよう努力はしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束しないケアの実践をしています。ただし、玄関施錠に関しては、内側からは簡単に開けられる仕様にはなっていますが、防犯上の理由もあり施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修時に虐待についての研修も行っています。事例検討も含め、職員にわかりやすいように説明し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する入居者様がいるので必要に応じて個々の役割について確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居者様、ご家族様に説明し、ご理解と承諾を頂いています。何かわからないことがあれば質問して下さいと伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見は、運営推進会議を通してお話して頂くとか、入居者様であれば、介護相談員などのお話で外部者へ表せる機会になっていると思っております。ご家族や入居者様からの意見は、ホーム内で共有できるように、全体会議やカンファレンス等で伝えます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットでは月に1回カンファレンス、全体では2ヶ月に1回の全体会議で職員が意見や提案できる場を設けています。仕事帰りに職員に話しかけ会話を大切にしています。少しのことで管理者に伝えやすい環境を作ることで、反映しやすくなっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や人事担当者より職員の努力や実績、勤務状況を評価シートやテストを用いて個々に面談も行いながら代表者に伝えています。職員がやりがいをもち働けるように、職場環境、条件の整備に努めています。代表者は管理者とも面談をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、実務者研修を受ける職員への助成金や働きながら取得できるよう環境を整備しています。研修は法人内もちろんですが、外部研修も行きたい研修があれば届出を出して行くことができます。職員に対し、外部研修で良さそうなものがあれば紹介もしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の中から担当者が月に一度、関連会社との交流会に参加している。地域のグループホームネットワークにも参加し、交流を重ねている。他事業所の管理者を、実習としてホームに向かい入れることもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方には、不穏にならない様にくさくさん話をし、コミュニケーションをとり、アセスメントを行っています。アイシン出来る環境を作りながら意見を傾聴するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族の話を出来るだけたくさん聞けるようにし、困っている事や、今後の不安、要望等を聞くように努めています。話しやすい雰囲気を作るように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1ヶ月は本人の様子を観察し、居間何が必要か等をカンファレンスで話し合い、ご家族にも説明し、支援を行います。他のサービス利用についてもその都度説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人の出来ることを把握し、職員と一緒に何かを行うことを大事にしています。職員が食器洗いをして、横で入居者様が食器拭きを行う等。談笑しながらの時間を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や思いをご家族様に伝える事によって、ご家族様と一緒に入居者様を支えていく体制を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍では、面会制限があり、ご家族以外の面会が出来ない時期が続きましたが、現在は面会も大丈夫になったので友人の面会も再開されています。外出も大丈夫になったのでご家族に呼び掛けてはいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を築くために、席の配置に配慮しています。気の合う方を同じ席にしたり、会話の橋渡しをする等、日常的に行っています。近くの席の方を思いやる場面は多く見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した入居者様のご家族がイベントのボランティアに来てくださったり(ご本人様からの申し出)食べ物を寄付してくださったりと良好な関係が続いているご家族もいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いをくみ取り、生活に活かしていけるよう努めています。他にも思いをご家族に伝えることで、少しでも本人の気持ちに応えられるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントをとり、ご本人の生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のことはケース記録に記載し、職員間で情報共有できるようにしています。アセスメントに記入し、何か変化があった際は、記録、申し送りしています。Lifeを始めてから毎月の現状把握も行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットごとにカンファレンスを行い、課題とケアについて話し合っています。日常の様子やモニタリングの際に、ご本人の意見を伺っています。ご家族様とは面会の際やプラン説明時に意見を伺って、反映出来る様にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人一人の様子の変化を個別に記録し、申し送り時に状況報告をし、情報を共有しています。実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や要望に合わせ出来る範囲でサービスの多様化に努めています。ご家族への要望を言われることもあり、家族と話をすることを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が近隣のお店に行かれたり、散歩などで近所の方と挨拶を交わしたり、お祭りに参加され、地域の一員として暮らしていけるよう支援しています。防災訓練はコロナ、インフルエンザ等で地域が小規模で行う等で最近はなかなか参加できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族に意見を聞き、かかりつけ医がある場合は継続し、往診希望のある方には連携しているクリニックを紹介し、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が月に1度来所します。外部受診をされている方は毎週訪問看護が入り健康チェックや爪切りを行っています。受診対応の指示やアドバイスを頂いています。24時間体制でもあり、入居者様が適切な受診、看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは電話連絡はもちろん、面会できる状態であれば面会し状況を確かめています。病院関係者との関係づくりの為に、出向いて話を、聞くを大事にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に指針を伝えていますが、重度化した際に改めて伝え、ホームでできることを十分に説明しています。医療との連携を図りながらチームとしてご本人を支える事に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応の勉強会をホーム内で定期的に行っています。心臓マッサージや窒息事の為のハイムリック法、その他コロナのクラスターに備え防護服の着脱等定期的勉強会も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練は、定期的に行っています。夜間を想定しての訓練も回数は少ないですが行っています。コロナ以前は自治会の避難訓練に入居者様と一緒に参加していましたが、ここ数年行けていません。水害時の訓練としては机上訓練のみで最近は出来ていませ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを尊重し、ケアするようにしています。羞恥心にも配慮しトイレの扉、居室の扉も事情がない限り開放したままのケアはしない、自室の介助ではカーテンを使用しプライバシーを損ねないようにしています。声掛けにも十分配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば洋服選びが出来る方はご自分で選んで頂いています。難しい方はどちらがいいかと2枚の中で選択して頂いたり、飲み物をお出しする際も温かい冷たいを選んで頂く等、自己決定できる機会を作るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やおやつ、食事以外の時間は、それぞれが好きな場所で好きなように過ごして頂いています。自室でテレビを観るかた、居間で織が気をする方、塗り絵をする方等、なるべく一人一人のペースで生活出来る様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの洋服を着て頂いています。一人一人にあった声掛けで整容も心がけています。2ヶ月に一度の美容院もヘアカットだけでなく白髪染めも行えるようになってきました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では食事の準備のお手伝いをして頂く機会は少ないですが、おやつと一緒に作ったり、食後の食器洗いや、食器拭き等、一緒に行っています。1人1人の好みを把握し、旬のものを取り入れたり、色合いに注意し味覚だけでなく視覚でも楽しんで頂けるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人一人の食事量を把握し、その方に応じた食事を提供しています。水分量、食事量とも毎回タブレットに入力し管理しています。献立表、10品目のチェックをしながらバランスの良い食事を提供できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に自室で口腔ケアを行っています。介助が必要な方は必要な介助を行っています。状態に応じた口腔ケアに努めており、口腔スポンジを使用している方もいます。必要時には訪問歯科医も利用しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をヒントにしながら、失禁でなく、トイレでの排泄ができるようにそれぞれの入居者様の排泄のパターンを知ることが出来るよう努めています。排便コントロールも行っていきます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認しながら水分量のチェックやおなかのマッサージ等を行っています。毎日の体操や歩行練習と少しでも体を動かすことを促したり、医療と連携をしその方に合う便秘薬の相談をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3人の入浴を行っています。曜日や時間は決めていませんが、殆ど午前中に行っています。尿すとまーの方は、医療の処置が来る時間に合わせなければなりません、他入居者様はその時に応じた対応をしています。拒否しないような声掛けを工夫したりしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の状態によって、昼寝を促したり、窓際で日光浴をされうたた寝される方もいます。その人の生活習慣を考えながら対応し、夜間眠れない訴えがあった場合は医療に相談したり、出来る事を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局により一包化されてはいるが、薬の名前は載せてあり、薬の説明書を職員は見ている。症状の変化がある場合は薬の説明を確認し、副作用が出ていないか確認、医療に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴、趣味、嗜好品等をお聞きしています。その方に合った役割、楽しみを模索し支援しています。火事が好きな方は家事を、手先が器用で細かいことが好きな方は塗り絵や貼り絵、折り紙等を、ドライブや散歩が好きな方、テレビ鑑賞が好きな方等皆様に沿った支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩にはよく出かけています。時々ドライブにも出かけますが、買い物の頻度は少ないです。家族に協力を仰ぐこともありますが、家族と外食、外出に出掛ける方は少ないのが現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金はホームで預かっており、頻度は少ないですが、買い物に出掛ける際は、所持できる方には渡して、自分で払って頂きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望によりご家族に電話したり、友人との電話、手紙のやり取りをされてはいるが、依頼される方は少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせる、落ち着いて過ごせるように冷暖房の調整をしています。リビングの窓から景色を眺め、季節を感じる事が出来ます。季節ごとの花、貼り絵等を飾り、入居者様同士の会話のきっかけにも繋がっています。日中はテレビや音楽を流し寛げる空間作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、気が合う同士で座れるように考えて決めています。居間にソファを2脚置いてあり、好きな時に座って頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、ご自宅で使い慣れたものや、好みのものをなるべく持って来て頂くようにしています。その後は現状に合わせてご家族と相談しながらその時のその方に合った部屋作りを支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室は分かりやすく目印のプレートを置いたり、入居者様の動線を観察し、安全に自立した生活が送れるよう支援しています。		